

（仮称）町田市北部丘陵活性化計画アクションプランの位置づけ

「（仮称）町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン」は、町田市北部丘陵活性化計画で位置づけられた計画の目標像や基本方針などの「基本計画の要素」を引き継ぐものです。

その上で、活性化計画をさらに進めていくために、実施計画の要素の部分である「4つのプロジェクトによる展開」に位置づけられた「具体事業のイメージ」等について、その進捗や成果を踏まえつつ、今後実施する事業を精査するとともに、重点化・明確化を図るものです。

※活性化計画に位置づけられた各種事業を踏まえ、
今後実施する事業の精査および重点化・明確化。

町田市北部丘陵活性化計画

基本計画の要素

第1章 計画策定の必要性

- 1-1 北部丘陵のこれまでの経緯
- 1-2 社会状況の変化
- 1-3 北部丘陵の価値・魅力、課題
- 1-4 計画策定の必要性

・北部丘陵の資産をさらに磨き、価値を高めて将来に引き継いでいくことが、活力のある地域の発展へとつながる。そのために、北部丘陵の資産を将来に引きついでいくための明確な目標像や、その目標像を着実に実現していく道筋を示した計画が必要

第2章 計画の基本的な考え方

- 2-1 計画の前提
- 2-2 計画の枠組み
- 2-3 計画の視点

2-4 計画の目標像

人と人が育む、美しく、いきいきとした
町田ならではの里山をめざして

2-5 基本方針

町田ならではの里山を創造する担い手を育む

- ①農業を実践する人から緑を楽しむ人、学校から企業まで、あらゆる人や組織を担い手として呼び込む
- ②担い手を育み、交流の場を確立する
- ③担い手がいきいきと活躍する環境を整備する

いきいきと住み続けられる環境を整える

- ①必要な道路を整備し、交通アクセスを改善する
- ②生活の質を高める施設の整備をする
- ③農地や農道の整備等により営農環境を改善する

かけがえのない多摩丘陵の風景を将来に引き継ぐ

- ①法制度等を用いて重要な緑を確実に保全・再生する
- ②独自の誘導・支援により東京随一の美しい丘陵風景を保全・再生する

資源を磨き「地域力」を発信する

- ①自然・歴史・文化資源を磨き、新しい観光・交流の拠点をつくる
- ②北部丘陵の魅力や活動を積極的に情報発信する
- ③地域の経済的な循環が成り立つ持続可能な仕組みをつくる

実施計画の要素

第3章 4つのプロジェクトによる展開

3-1 4つのプロジェクトによる事業の実施

担い手確保・育成プロジェクト

担い手の様々な志向や北部丘陵への関わり方に応じて多様な事業を展開する。そうした担い手の活動が定着し、自律した活動へつながるように支援する。また事業には市有地を先導的に活用しながら民有地の活用へと広がる取り組みを行う。

- 具体事業イメージ
- 市有地を活用したアイデアコンペの実施
 - 市民農園、体験農園の整備
 - 企業・大学の社会貢献活動等と連携した農地・樹林地の活用

生活・なりわい環境整備プロジェクト

道路整備等交通アクセスの改善、生活の質の向上、営農環境の改善を図る事業を実施する。事業の実施には北部丘陵の環境や風景との調和に十分配慮する。また初動期から地域住民とともに検討し、協力を得ながら実施へとつなげていく。

- 具体事業イメージ
- 生活道路の整備
 - 道路整備に伴う土地利用方策の検討（地区計画制度等の活用）
 - 丘陵の地形を活かした農地の改善や農道の整備

風景継承プロジェクト

重要な緑や美しい丘陵風景の保全・再生を図る。また同時に水路や河川の修景に取り込む等、可能な場所から少しずつ風景を守り育む具体的な事業を行い、担い手による保全・再生を基本としながら、必要な箇所は法制度の活用との両面から取り組む。

- 具体事業イメージ
- 都市計画制度や町田市の緑の保全制度の活用
 - 町田市景観計画による景観形成誘導地区等の活用
 - 丘陵の風景に馴染む水路・河川の維持・改善

地域力発信プロジェクト

北部丘陵の魅力を高めて地域ブランドの向上につなげるために地域資源を磨き、観光・交流を図る事業、北部丘陵の魅力や活動を幅広く情報発信する事業、地域の経済的な循環の確立につながる事業などを戦略的に展開する。

- 具体事業イメージ
- フットパスの環境整備
 - 「（仮称）北部丘陵ポータルサイト」の開設
 - 農産物直売所の開設・運営の支援

3-2 先行事業実施地域におけるプロジェクトの展開イメージ

第4章 計画の推進に向けて

- 4-1 計画の推進体制の整備
- 4-2 計画の定期的な点検・評価

（仮称）町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン
（構成イメージ）

1 策定の背景・目的

- 町田市北部丘陵活性化計画の進捗状況と課題
- アクションプランの主旨
- アクションプランの位置づけ、期間 など

2 アクションプラン

- アクションプランの考え方

◆重点事業候補

※今後実施する具体的な事業の重点化・明確化

① 新たな交流・回遊拠点を整備する

担い手
確保・育成

地域力
発信

② 貴重な里山の保全を促進する

担い手
確保・育成

風景
継承

③ 山林の維持管理や利活用を図る
仕組みをつくる

担い手
確保・育成

風景
継承

④ 住み続けられる環境の向上を進める

生活・なりわい
環境整備

⑤ 持続的なまちづくり検討のプラットフォームをつくる

担い手
確保・育成

⑥ 北部丘陵での活動や魅力の効果的な
情報発信を行う

地域力
発信

◆個別事業

※活性化計画に示された「具体事業のイメージ」等を踏まえ、
上記の重点事業以外で実施する個別事業やその内容を精査

3 事業の推進方策

- 事業の全体スケジュール、事業の実施予定時期、成果指標 など

※アクションプランに位置づけた事業を着実に実施していくために、各事業の実施予定時期、進捗を把握するための事業指標を明示。